

Trends in Mental Wellbeing of US Children, 2019-2022: Erosion of Mental Health Continued in 2022 (Bhandari N, Gupta S. 2024)	
国	アメリカ
研究デザイン、調査方法	サーベイ
研究期間（調査期間）	2019 年～2022 年
対象者情報	27,378 名（年齢 2 歳から 17 歳）
調査内容	COVID-19 パンデミックにおける米国の小児の精神的健康症状の全国的な有病率の変化を調査（国民健康調査 National Health Interview）。精神的苦痛と発達、コミュニケーション、認知、感情、行動等の各領域に関連する 19 の事項について評価。
概要	全年齢層のこどもたちのメンタルヘルスは 2019 年から 2020 年にかけて悪化した。2021 年に入りわずかに回復がみられるが、2022 年に完全に回復することはない。2022 年になっても精神的健康に影響が及び、特に思春期の子ども達に大きな負担がのしかかっている。
Mental health after the COVID-19 pandemic among Finnish youth: a repeated, cross-sectional, population-based study (Kiviruusu O, Ranta K, et al., 2024)	
国	フィンランド
研究デザイン、調査方法	サーベイ（全国横断調査）
研究期間（調査期間）	2015 年～2023 年
対象者情報	722,488 名の学生（平均年齢 15.8 歳、男子 48%、女子 52%）
調査内容	・全般的な不安障害尺度 GAD-7 ・PHQ-2 ・社交不安の Mini-SPIN Social Phobia Inventory、 ・精神的ウェルビーイングの評価尺度 SWEM WBS ・その他（孤独感、摂食障害、自殺企図等）の質問
概要	不安、抑うつ、社会不安症状等の訴えは COVID-19 以前のレベルから 2021 年まで増加し、2023 年にはすべての年齢層で高いレベルにとどまった。一方、精神的ウェルビーイングスコアは低下した。2023 年は 7 割を超える女子、3 割強の男子が何かしらのメンタルヘルスの問題を抱えており、孤独感だけが唯一改善がみられた指標であった。COVID-19 の大流行が青少年のメンタルヘルスに大きな影響を与え、その影響は長期にわたる可能性があることを示唆している。
Evolution of Sleep Duration and Screen Time Between 2018 and 2022 Among Canadian Adolescents: Evidence of Drifts Accompanying the COVID-19 Pandemic (Poirier K, Gauvin L, et al., 2024)	
国・地域	カナダ
研究デザイン、調査方法	Natural experiment design
研究期間（調査期間）	2019 年～2022 年
対象者情報	28,307 名（高校生、平均年齢 14.9 歳）
調査内容	思春期の睡眠時間とスクリーンタイム ・睡眠時間に関する質問 ・スクリーンタイムに関する質問。時間、使用目的、等 ・フラリッシングスケールを用いた有能感、楽観主義、自己受容等の心理的フラリッシングの評価。
2019 年データをベースラインに 2022 年までのデータで比較。2019 年から 2022 年の間に睡眠時間とスクリーン使用時間ともに増加したが、2022 年には、睡眠時間とスクリーン使用時間はほぼ等しくなった。	

Three years into the pandemic: results of the longitudinal German COPSy study on youth mental health and health-related quality of life (Ravens-Sieberer U, Devine J, et al., 2024)	
国	ドイツ
研究デザイン、調査方法	Population-based 縦断的研究
研究期間（調査期間）	2020 年～2022 年（この間 5 回調査を実施）
対象者情報	2,471 名（年齢 7 歳から 17 歳）
調査内容	ドイツのこどもたちの QOL とメンタルヘルスへの影響 ・ HRQoL (KIDSCREEN-10) ・ メンタルヘルス SDQ ・ こどもの不安感情 SCARED ・ 抑うつ症状 CES-DC, PHQ-2 ・ 心身症 HBSC-SCL、将来への不安等 DFS-K
2020 年から 2022 年の間、5 時点で QOL やメンタルヘルス指標を評価した。HRQoL 低値、精神的健康問題、不安、抑うつ症状等のあるこどもの割合は多くが 2020 年 12 月から 2021 年 1 月の調査で増加し、それ以降、徐々に減少または改善がみられている。一方で、パンデミック前の状態まで改善がみられていないものもあり、心身の不調は依然として続いている。	
Long-term gastrointestinal symptoms and sleep quality sequelae in adolescents after COVID-19: a retrospective study (Wei-Lin Yang, Qi Wang, Ying Wang, et al., 2024)	
国・地域	中国
研究デザイン、調査方法	サーベイ、後方視的研究
研究期間（調査期間）	2023 年
対象者情報	578 名（年齢 12 歳から 17 歳）
調査内容	中国のこどもの消化器症状と睡眠の質に関する COVID-19 感染の影響 ・ 既往歴、教育背景、COVID-19 感染既往 ・ 消化器症状スケール（GSRS）高スコアがより重症を示す。 ・ ピッツバーグ睡眠質問票（PSQI）総合的に睡眠の質を評価。低スコアで良好な睡眠と評価。
2023 年に振り返る形で COVID-19 流行前、COVID-19 感染時、感染後（1 か月後、3 か月後、6 か月後）という複数のポイントで調査を実施した。消化器症状と睡眠、両者とも感染の急性期には悪化するが感染 1 か月後には改善の方向に進むと述べられている。	
Caregiver and Child Mental Health During 3 Years of the COVID-19 Pandemic (Anna M.H. Price Mary-Anne Measey, et al., 2024)	
国・地域	オーストラリア
研究デザイン、調査方法	サーベイ、横断調査
研究期間（調査期間）	ステイホーム期間：2020 年～2021 年の間に 3 回調査実施。 ロックダウン後：2022 年～2023 年の間に 3 回調査実施。
対象者情報	0 歳から 17 歳のこどもをもつ 12,408 名の養育者と 20339 名のこども
調査内容	オーストラリアのこどもと養育者のメンタルヘルス 養育者：自記式。不安・抑うつ尺度 K6 で評価。 こども：自記式。不安・抑うつなど SRMH を用い評価。
ネガティブな精神症状は 2021 年の 7 月のロックダウンの際にピークに達したが、その後、社会状況の落ち着きとともに減少し回復した。自己評価によるネガティブな体験感情はこどもの年齢が高いほど増加がみられた。また、教育的背景などの要因を含め分析するとその回復力には社会的勾配の持続を認めた。	